



鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第120号

2022年11月1日

神社新報連載が書籍に！

社叢に関する情報・現状・管理の考え方、SDGsからの視点なども

昨年11月に始まった神社新報(神社新報社発行・週刊)の連載は、10月10日号で終了した。全30回の連載は、いずれも社叢を考えるうえで欠かすことのできない視点からの知識や情報が網羅され、読み応えのある充実したものになった。掲載時から好評で、神社新報社から単行本として出版されることとなった。発行期日は未定だが、今年中を目指して編集作業が進んでいる。

社叢での実践活動の紹介や、地域社会の核として

の社叢の役割、社叢にまつわる法律問題などの他に、昨今、生物多様性国家戦略検討会などので、OECM(国立公園などの保護地区以外で生物多様性を効果的にかつ長期的に保全しうる地域)としての社叢に注目されているが、こうした新しい視点からの論考も読むことができる。

また、連載時の写真をカラーで掲載する口絵ページも予定されている。当学会発足から20年を経ての出版で、これまでの活動の集大成となる。

開催決定!! 社叢インストラクター養成セミナー・資格認定試験

26日の講義は関西定例研究会と共催

社叢インストラクター養成セミナー・資格認定試験は、共に予定通り実施することとなった。

セミナー1日目の賀茂御祖神社での樹木実習は、普段入ることができない本殿背後の社叢で実施が許された。また、2日目の伏見稲荷大社では2008年から3年間にわたって実施したナラ枯れ被害後の社叢復活に向けての実証実験の現地で、現況調査と今後の進め方について検討する。

26日(土)午後の深町加津枝理事による講義は、関

西定例研究会との共催で、一般の会員も参加していただける。

セミナーの受講料は、正・協力・賛助会員は15,000円、市民会員は17,000円。申込用紙は社叢学会ホームページ(<http://www.shasou.org/inst/ent.pdf>)に掲載しているので必要事項を記入の上、郵送されたい(mail不可)。申し込み締め切りは11月19日(金)必着。

なお、資格認定試験の受験だけでも可能で、その際は受験料として5,000円を申し受ける。

11月26日(土) 賀茂御祖神社公文所

10:00～12:15	ガイダンス・実習・フィールドのまとめ等 前迫ゆり
13:00～14:20	近江の社叢と文化的景観 ～比良山麓と奥永源寺の事例から 深町加津枝
14:30～16:10	講義〔都市と社叢 糸谷正俊〕と総括

11月27日(日) 伏見稲荷大社儀式殿

10:00～12:00	樹木・社叢実習・フィールドのまとめ等 渡辺弘之(前迫)
12:50～14:10	祭事に使う植物 渡辺弘之
14:30～16:00	社叢インストラクター資格認定試験



御堂筋のイチョウ並木について

話題提供：大槻 憲章(株公園マネジメント研究所技術顧問・元大阪府公園課長・NPO法人国際造園研究センター常務理事)

コメンテータ：糸谷 正俊(社叢学会顧問・株総合計画機構相談役)

ほぼ1年ぶりに、また座学としては3年ぶりに関西定例研究会を開催した。御堂筋のイチョウ並木について詳細に講演いただいたが、今号ではその中でイチョウについて解説された部分を掲載する。次号以降、御堂筋について、糸谷正俊顧問によるコメント、社叢見学報告を掲載していく。

まず、大槻憲章氏の略歴を紹介する。1951年、綾部市生まれ。京都大学卒業後、1975(昭和50)年に大阪府庁に造園職で入庁。ニュータウンの公園、市町村の公園造成を担当。2010(平成22)年からは国際花と緑の博覧会記念協会で勤務。退職後、公園マネジメント研究所勤務の傍ら造園関係のNPO法人で活動を重ねている。



御堂筋のイチョウ並木

イチョウとは イチョウの学名はGinkgo biloba、漢字では銀杏とか、公孫樹と書く。中国原産の落葉樹で、裸子植物の一種で幹は直立し、高さは20~30mぐらいになる。葉は扇形で葉脈は付け根から先端まで放射状に伸びており、葉の中央部が浅く割れているものが一般的。学名のピローバとは二つに裂けているという意味だが、全く割れていないものや、もっと多く裂けているものもある。厳密には、針葉樹にも広葉樹にも属さない。丈夫で長命、強い萌芽力がある。樹皮はコルク質が発達し、耐火性があるので火伏せの木ともいわれ、社寺などに防火用として植えられることもある。また世界中で街路樹や公園木として親しまれている。イチョウという発音だが、漢字で「鴨脚子」と書かれ、近世中国音でヤーチャオと発音していたからだとか、貝原益軒が「一葉(イチョウ)」から命名したという説などがある。

イチョウは裸子植物門イチョウ綱の中で唯一の現存している種で、「生きた化石」と呼ばれている。中生代から新生代第三期にわたる地層から多くの化

石が見つかっていて、化石植物ともいわれる。白亜紀ぐらいにはあったという記録があり、イチョウは恐竜とともに育ち、それから2億年もの間、ほとんど変わらず生きてきた世界的にも稀な植物だ。恐竜は絶滅したが、イチョウは生き残ったということだ。

ユーラシア大陸のほぼ全域と、北米大陸からも化石が出ているので分布していたと考えられるが、人類が出てきた700万年前ぐらいには殆ど絶滅状態になり、かろうじて中国大陸で人の力を借りながら生き延びたと言われる。中国で生き残ったものが日本に伝わり、それが長崎を通じてヨーロッパに、さらにアメリカ大陸に伝わったとされる。

天然記念物のイチョウ 国の天然記念物でイチョウはどのようなかと見ると、全27件と、スギ・サクラに次いで3番目に多く指定されている。その次がクスで、クスよりイチョウの方が多い。そしてケヤキ、ソテツという順番になっている。

ではイチョウの大木はどのようなか。2000年に実施された環境省の緑の国勢調査と、その後のフォローアップ調査を見ると、東北の方が多い。上位5本はすべて岩手県、青森県にある。また、京都市が指定している府民の誇りの木は、全部で1000本程度で、そのうちのイチョウが70本でやはり3位だ。

西本願寺の逆さイチョウ 伏見稻荷大社周辺で立派なイチョウといえば、西本願寺のイチョウだ。逆さイチョウと言うが、すらっとしたイチョウではなく、横に大きく枝を広げているので逆さイチョウというのだろう。1985(昭和60)年に市の天然記念物に指定されている。寛永13年と言うから、17世紀の中頃に本願寺御影堂が建立されたときに植えられたと伝えられているので樹齢は約400年くらい、幹回りは6.5m。高さ7mぐらいで枝張りが24m、平たい形をしている。

1788(天明8)年の皇居も延焼する、京都の大半が消失するような火事や、禁門の変、蛤御門の変という大火に襲われた時にも、火の粉を浴びながらも生き抜いてきた木で、その時、水を吹いて火災を防いだという言い伝えから水吹きイチョウとも言われている。

倉垣天満宮のイチョウ 大阪府指定の天然記念物に倉垣天満宮のイチョウがある。倉垣天満宮は1054年に北野天満宮の分霊を、歌垣山の頂上に勧請して祀ったのが起源の神社で、1584年に現在の場所に移転されたということだが、当時すでに「翠枝千歳なりき」と言わ

れていた。絵図も残っているようだが、昔から地元の人たちが崇拜するご神木だった。樹形からすると2本の枝が合体したような形になっていて幹に少し傷があるが、元気だ。ただ、1584年にそんなに緑の豊かな木なら、そこからまた500年ほど生きているわけだから、一体、今何歳の木だろうという疑問が生じるどころだ。**北金ヶ沢のイチョウ** 緑の国勢調査で1位になった青森県西津軽郡深浦町の北金ヶ沢のイチョウは、環境省の調査では樹高40mになっているが、青森県のデータでは31m。写真を見れば青森県のデータが正確かと思われる。幹周が20mを超えるイチョウというのはこの木だけで、全国1位と認定されている。

垂れ下がった円錐形の突起が生じているが、これは気根といい、酸素を吸収するためのものだと一般には考えられている。ただ、これは少し不思議なもので、湿地に生えるラクショウやメタセコイアなどは地下から気根を出す。根本が湿地で十分な酸素が取れないから、地上に根を出して酸素を吸収していると言われていた。ところが、このイチョウは上から下へ出す。酸素は空中にあるのだから気根を出してまで酸素を吸収する必要はない。こう考えると単に呼吸するための気根ではないと思われる。マングローブやガジュマルなどは上から根をおろしてくるから、それらと同じような、木を支えるという意味があるのだろうか。

このオప్పパイに似た形をした気根に触れると母乳の出が良くなると言われ、この北ヶ沢のイチョウにも垂乳根の銀杏という名前がついている。樹齢1000年以上で鎌倉時代の老木だと伝えられているが、それほどではないと思う。

環境省自然環境局では、300年以上は経っているとしているが、300～500年ぐらいではないだろうか。

樹齢にまつわる不思議 須佐之男命は木の生みの親と言われ、『日本書紀』には、鬚髯を抜いて杉に変えて船を作る、胸毛は檜で宮殿を作る、尻毛は椈(マキ)で棺桶、最後に眉毛は櫛樟(クスノキ)、これも船にしたという件がある。ここにイチョウは入っていない。

イチョウは我が国の古典文学の中にはなかなか出てこない。出てくるのは平安時代の末期から鎌倉時代ぐらいになってからで、この頃に渡来したのではないかと

と思われる。あのように特徴のある木は、平安時代などには、人目に触れれば文学に書かれるはずだから、それが一切出てこない。これは、渡来したのが12、3世紀頃だからではないかと思われる。ところが、樹齢1000年以上と言われるような木が非常に多い。そういう意味で非常に不思議な木ではないかと思っている。

2010年に突然倒れた鎌倉鶴岡八幡宮の大イチョウも非常に有名で、公暁が実朝を殺そうと、その陰に隠れていたという言い伝えがある。しかし、鎌倉時代の1219年に、人が隠れるほどの大木になっていたというのは、非常に疑問に思える。実は『愚管抄』には全くイチョウが出てこない。「鎌倉物語」という江戸時代の本に挿絵があり、そこには石段の横に大きなイチョウの絵が描いてある。その頃に、この説話が出来たのではないだろうか。

神宮外苑の並木道 東京の神宮外苑イチョウ並木は非常に有名で、様々なドラマやコマーシャルに出てきたりする。非常に綺麗な形をしているが、これがイチョウの自然樹形ではなく、剪定をしてこのような形に維持しているのだ。現在、神宮外苑の大改造計画が進められ、東京都がこのあたりの木を全て伐るという計画を出したものだから、並木を守ろうという声上がり、抗議活動が繰り返された。この部分は伐られないような計画に修正されたようだが、左側に大きな構造物が作られるということが考えられている。何とか並木道とその環境を守ってほしいものだ。

変わり種 ごく稀に葉が開かずラップ状に丸まったものがあり、ラప్పパイチョウと言われる。丹波篠山の医王寺という小さな寺の境内にある。さらに、お葉付きイチョウ、これは実見していないのだが、奈良県曾爾村の門僕(かどふさ)神社の境内にあると聞いている。どちらも県の天然記念物に指定されている。

イチョウの事故 今年の8月に鹿児島県の高岡小学校の校庭で、大イチョウの枝が落ちて、下で芝刈りをしていた校長先生に当たって亡くなったという事故があった。また同じ頃、堺市内で寺の庭園のイチョウの枝が落ちている。枝が7mくらいで、幹が直径13.7cmくらい、イチョウは丈夫な木だが、突然に折れて枝が落ちることがある。これは管理上、注意しなければいけない点だろう。

雌雄の見分け方 イチョウのオスメスが、実がなる前にわかる方法はないのかとよく尋ねられる。いろいろな説があるが、葉の切れ込みのある方がオスでない方がメス、枝が上に伸びている方がオスで、横に張っている方がメスなどと言うが、いずれも実際にはそんなことはない。

ここで、御堂筋のイチョウを調べた時に、気づいた判別法をご紹介します。葉を出す前の短枝には先が丸いものと尖っているものがある。御堂筋のイチョウには雌雄別に記録した一覧表があるので、これと照らし合わせると、短枝の先が丸い方がオス、細い方がメスということになっているのが非常に多いということに気が付いた。目下、これがオスメスを見分ける唯一の方法ではないかと思っている。ただ、学術的に調査をしたわけではないし、全てのオスメスの木を調べたわけでもないで、ここでは推測という表現にとどめておきたい。



北ヶ沢の垂乳根イチョウの気根

事務局から

- 下記の通り、『社叢学研究』21号への投稿を募集しています。身近な社叢での活動、社叢の訪問記(紀行文)など、楽しかった思い出、またコロナ禍で気付いた社叢変化など、どのようなことでも結構です。ぜひ、ご投稿ください
- 今年度の会費未納の方には振替用紙を同封いたしました。何かと多端な折とは存じますが、社叢学会は会費で運営しております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。なお、12月末日までに入金の確認ができない場合は、「鎮守の森だより」等をお送りできなくなりますので、悪しからずご了承下さい。退会をご希望の場合は、会員番号とお名前をご記載の上、Fax・Mailでその旨、お知らせ下さい。

銀行振込も可能です。三菱UFJ銀行 京都支店
普通口座6720345 特定非営利活動法人社叢学会です。

会費をお支払いいただいた方には順次、会員証をお送りいたしております。お支払いいた

いたにもかかわらず会員証が届かない場合は、お手数ですが事務局にご一報ください。

編集後記

へっへっへ、ついに行ったった！ おウィーンとおパリ！ 3年半ぶり！ もうね、高かったわ。軽いお昼ご飯が3,000円！ サンドイッチが1ヶ1,000円越え！ ひえ。コメダ珈琲店を見習えっ！（って行ったことないけど。。。）

で、中面の研究会報告、岡村理事が音声文字化ソフトで変換して下さったのだけれど、これがなかなか面白い。ちびっとAIさんが働いているようなのだけれども、気根のところで、いきなり「僕は既婚です」とかゆーし。ちょっと楽しませていただきました。

でもね、録音を文字にするってホント大変なのよ。音声はあっという間に進んで行くし、肝心なところで滑舌が困ったことになる人もいるし。ホント助かりました。（藤岡 郁）

次回予告【第38回中部定例研究会】

- ◆日時：2023年2月6日(月) 13:30～
- ◆場所：熱田神宮（名古屋市熱田区神宮1-1-1）
- ◆内容：正式参拝、多賀禰権宮司挨拶の後、林苑課職員の説明を聞きながら社叢を拝観

次回予告【第90回関西定例研究会】

- ◆日時：11月26日(土) 13:00～14:20
- ◆場所：賀茂御祖神社公文所（左京区下鴨泉川町59）
- ◆テーマ・講師は1面に記載

原稿募集中！

「鎮守の森の活動報告」(祭、音楽会、調査、ワークショップなどの実施報告、抱える問題など)や各地の「社叢訪問記」(各1,200字程度)の投稿締め切りは12月23日(金)必着です。

お気軽にご投稿ください！

* 書評欄では会員の皆さま方の著作を取り上げています。出版された方は、ぜひご献本下さい

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115 京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
TEL・FAX 075-212-2973
URL <http://www.shasou.org> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp
facebook <https://www.facebook.com/shasou>
社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内
TEL080-1514-5032 E-Mail shasougakkai@hotmail.com